

2009年度オープンカレッジ秋学期開講科目簡易ガイド

このガイドは2009年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学 ホームページのシラバスを、是非ご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	科目名	No	曜日・時間	担当者	ガイド
機械・電気・電子・建築・土木・化学・情報処理	工作機械	1	火7・8	稲崎 一郎	生産活動の中核は、素材を要求された形状に加工する工作機械である。本講義では、高精度、高能率加工を達成する上で工作機械が具備すべき性能と、その周辺課題が理解されるように平易に講義する。材料、力学、設計関連の科目を習得していることが必要で、これらの基礎科目の応用科目にあたる。
	電気エネルギー変換機器	2	月5・6	坪井 和男	電気エネルギーの発生、変換、利用のほとんどは発電機、変圧器、電動機などの電気エネルギー変換機器でなされている。各種エネルギー変換の基礎およびそれらの代表的機種である変圧器および誘導機の原理、構造、特性、応用など。
	通信方式	3	火5・6	太田 健次	『電子回路基礎』『アナログ電子回路』を基礎科目として、変調の必要性や復調の原理など。
	建築と社会B	4	金5・6	片岡 靖夫 稲川 直樹	社会・歴史・地域・歴史・資源、と建築の関係、あるいは各時代の社会に存在する固有の問題を、3人の専任教員と2人の特別講師(溝口正人 名古屋市立大学大学院准教授、小松幸平 京都大学教授)がオムニバス形式でそれぞれの研究成果をもとにして論じる。
	基礎有機化学	5	金5・6	宮内 俊幸	メタンにはじまる数々の有機化合物の物質名および反応を体系的に把握し、脂肪族化合物の基礎的な反応など。
	基礎無機化学	6	火1・2	桜井 誠	無機化合物に対して電子理論の基礎を解説することによって、無機物質に対する電子理論的認識を学び、基礎理論に立脚した化学結合性、化学反応性、構造、物性等の理解のための化学の基礎知識の修得する。
	ネットワークシステム	7	水5・6	常川 光一	通信ネットワークシステムの基礎技術からインターネットの構成まで。

自然科学	数学の考え方	8	月5・6	伊澤 和義	『論理』『数論』に的をしぼって、数学の固有な考え方・方法について概観する。高校で数学をあまり学習してこなかった文系の学生にも、四則計算と方程式が解ける程度の素養があれば十分理解できる講義とする。
		9	金1・2	小寺 平治	線形代数の入門と応用を材料に、「暗記と訓練」という既存の数学観から「納得と感動」の数学への大転換を実証する。
		10	水3・4	種子田 誠	数学におけるものの見方・考え方を、具体的なものを通して体験し、論理思考力を養う。広く数学の世界を見てみる。
		11	火5・6	望月 朝恵	数学を応用に役立つ『数学の考え方』を、高校数学程度の知識で理解できる実用例を挙げながら概観する。
	数理科学	12	木7・8	竹中 俊美	複雑な現象や現実の問題を前にして、その本質を数式(数学モデル)化するには経験による修練が必要である。実例を通じた数学モデルの作り方をテーマとし、各分野でどのような数学がどのように使われているのかを紹介する。
	統計の手法	13	火3・4	竹中 俊美	数理統計学の基礎理論をできるだけ数学的な予備知識なしに講義する。数理統計の応用で必要となる基礎概念を理解し、統計データの解析の簡単な応用ができるようになることを目標とする。
	物理の世界	14	月1・2	吉福 康郎	主として近代・現代物理学の基本的概念、特に量子力学の概念を学び、古典物理学の描く自然像がどれほど大きく変化したかを理解する。また、核物理学の基礎を学ぶことにより、物質界の構成について基本的な理解をする。
	地球の科学B	15	水1・2	山田 功夫	地球の誕生から現代まで時間を追って生命と地球の共進化について解説し、生命の維持が微妙なバランスの上に成り立っていることを理解する。
	科学技術史	16	火7・8	堀川 直頭	学問の専門各分野の相互関係を科学技術の進歩を通じて歴史的に眺め、古代からの人間の営みに応じて思想や社会体制がいかに科学技術に影響を与えたか、また逆に科学技術のあり方がいかに社会・生活を変えていくかを、過去の事例をみながら考究する。
	地球環境論	17	火5・6	工藤 健	生態系の食物連鎖の上に寄生している人類を守るためには、動植物が活動する自然の生態系、すなわち地球環境を守らなければならない。環境問題を宇宙、地球、生命の歴史の中でとらえる。その上で、人類文明とは何かを、外側からグローバルに考える。
	微分積分学	18	水5・6と金3・4	小林 礼人	微分積分学をより広く学び、実用上に必要な計算力を習得すると共に、更に進んで解析学の諸分野を学び、それらを専門分野で応用してゆくのに役立つための、基礎的な知識と力を養う。ここでは、多変数関数が理解でき、図形が想像でき、それに関する微分積分の意味、計算、応用が出来るようになることを目標とする。
		19	月3・4と金7・8	森田 克貞	
20		月3・4と金7・8	手嶋 忠之		
21		月5・6と水5・6	森下 範一		
線形代数	22	火1・2	奥村 吉孝	線形代数Iで習った行列とベクトルの理解を深め、さらに進んだ応用問題をとりあつかう。2、3次の行列の固有値問題を解き、行列の固有値問題を利用して応用問題を解く、ベクトルの内積・外積の計算とその応用、線形写像の意味の理解など。	

このガイドは2009年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学 ホームページのシラバスを、是非ご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	科目名	No	曜日・時限	担当者	ガイド
自然科学	基礎物理学	23	金3・4	奥村 吉孝	主として、力学の基礎について学ぶ。物体の運動を扱う力学は物理学の基礎であると同時に工学の基礎でもある。基礎物理学を学びながら物理的な考え方を理解し、物理学および工学を学ぶための基礎づくりをする。
		24	火1・2	袴田 和幸	
	物理学A	25	水3・4	袴田 和幸	自然科学の基礎となる最も重要な分野である力学について学び、物理的な考え方や知識を身につける。ベクトルや微分・積分などの手法を用いて力学の基本法則を理論的に学び、これらの力学法則を実際の現象に具体的に応用し、力学的な思考方法に対する理解を深める。
		26	金5・6	堀川 直顕	
	物理学B	27	火7・8	吉福 康郎	電氣的、磁氣的現象に関する法則を記述する電磁気学の基礎について学ぶ。電磁気学の法則は電気製品等への応用だけでなく、物体を構成する原子・分子の性質を考える際にも使われる重要な物理法則である。電磁気学を学びながら物理的な考え方やその数学的な扱いについて理解し、工学を学ぶための基礎づくりをする。
		28	水5・6	堀川 直顕	
		29	木1・2	村岡 克紀	
		30	水1・2	大木戸 貞夫	
	物理学C	31	月5・6	宮島 佐介	電氣的、磁氣的諸現象を学び、その背後に潜む諸法則を見出す。さらに、簡単な例題を用いて、どのようにその法則が用いられるかを体験し、もっと複雑な場合への準備とする。
		32	木5・6	大木戸 貞夫	
物理学D	33	木7・8	宮島 佐介	物理学の根幹をなす一分野である熱学の、熱力学・統計力学の基本的な考え方など。	
	34	火3・4	宮島 佐介		

経済・経営・商業・情報	日本経済入門	35	月5・6	石田 昌夫	主としてマクロの分野を中心に学習する。経済分析に数学がいかに深く関わっているかを理解し、自分でも使いこなせるようにする。
	経済学入門B	36-a	木1・2	土屋 大二郎	経済社会の諸問題を把握し、社会の様々な事象を経済の側面から考え、経済社会の仕組みやマクロ経済の動向を理解する。
		36-b	木3・4		
	生産管理入門	37	月5・6	山下 裕丈	「ものづくり」とそれを支える管理技術を通じて、我が国の経済を支える中核的産業である製造業の仕組みと役割など。
	財政学	38	月1・2	石田 昌夫	政府行動のうち、歳入面に重点を置いた学習を行う。歳入の内訳は租税と公債であり、この両者の特長と相異、経済への影響について学ぶ。数学(とくに微分法)を多用する。また、『経済原論』『日本経済入門』によって得た経済学の基礎理論を用いる。
	組織とマネジメント	39	木1・2	辻村 宏和	組織づくりのソフト面(組織過程論)を扱う。ハード面(組織設計論)以上にソフト面のトラブルの怖さを現実的に即して説明する。キーワードは社長権威・経営者交代・ワンマン経営・院政など。
	組織行動論	40	火7・8	寺澤 朝子	組織の中の人間行動、組織をつくっていくプロセス、組織が存続する為に必要な資源の獲得をネットワークの観点から考える。生き残りのための組織変革の考え方も紹介する。
	組織変革論	41	金3・4	寺澤 朝子	『組織行動論』で学んだ知識をさらに広げ、さまざまな企業の具体例をとりあげながら、企業の変革に関して主体的に考えてもらう。また、企業の適切な事例を探しだし、その企業の属する産業の特徴をとらえ、企業の生き残り策を導き出す。
	簿記原理	42-a	金5・6	仁川 栄寿	『入門簿記』で習得した知識を前提に、簿記の基本的原理を取り上げる。企業の財務情報を収集・処理し、またこれらの財務情報を報告する方法など。
		42-b	金7・8		
		43-a	金5・6	阿部 仁	
		43-b	金7・8		
	株式会社社会論	44	火1・2	仁川 栄寿	『入門簿記』『簿記原理』および『上級簿記論』で習得した知識を前提として、株式会社の財務情報を収集・処理し、これらの財務情報を報告する方法など。
	経営ケース分析	45	火1・2	西田 豊昭	具体的なケースを提示し、経営学の基礎的な知識を身につける。
	国際人的資源マネジメント	46	火3・4	咸 惠善	文化と経営の関係、国際人材の育成とマネジメント、日本企業の異文化経営などを検討し、グローバル経営における人間のダイナミズムを把握する。
	人的資源戦略論	47-a	木3・4	咸 惠善	春学期の『人的資源マネジメント』の授業内容を踏まえ、人的資源管理を戦略的視点から考察する。
	現代市民法	48-a	水3・4	牧野 英克	主要な人生の節目や日常の市民生活(隣人関係、契約行為、財産の取得、環境問題、司法参加等)に焦点をあてながら、関係する各種の法律(憲法・民法・会社法・刑法・訴訟法・行政法等)の基礎など。
48-b		水5・6			
流通論	49	水5・6	三木 國愛	現代の『流通と商業』の現状と理論についての専門的理解を深める。加えて、日本の流通システムの課題と変革の方向を経営的立場から示すことを目指す。	
	50	月3・4	山下 裕丈	流通の基本構造及び流通・商業を取りまく現状とその課題について。	

このガイドは2009年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学 ホームページのシラバスを、是非ご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	科目名	No	曜日・時限	担当者	ガイド
経済・経営・商業・情報	広告論	51	月5・6	三木 國愛	『広告とは何か』について、また広告活動の理論と実際への専門的知識、及び広告実務の基礎知識について。
	国際経済学	52	金5・6	山口 直樹	国際貿易と国際金融の理論と現実を扱う。国際貿易の経済理論的な側面など。
	情報基礎数学	53	木5・6	浅野 寿朗	計算機科学の理解に必要な数学上の基礎知識。計算機科学に特有の論理等を扱う、いわゆる離散数学の基礎など。
	国際会計論B	54	水5・6	阿部 仁	会計国際化の歴史・最新の動向を理解し、日本の基準と国際基準の相違点及び会計基準のコンバージェンスについて理解する。
	シミュレーション応用(要PC)	55	木5・6	足達 義則	経営や経済の分野において数学的知識を習得することで、複雑な実社会をモデル化しながら簡潔に見る訓練を行い、数学を有効な手段とする。
	現代企業論	56-a	火7・8	大島 俊一	21世紀を迎えたわが国の企業社会の実勢と進展著しい情報・金融・物流分野の動向を中心として、それらがどのようにわが国の社会資本整備事業と関連しているかを明らかにする。
		56-b	木5・6		
	情報リテラシーB	57-a	月5・6	高橋 道郎	日々変化している情報技術を活用する能力を養う。具体的達成目標は、表計算ソフト(エクセル)を使用できることや正しい指使いでタイピングができること。『コンピュータ入門』『情報リテラシーA』を履修していることが望ましい。
		57-b	月7・8		
		57-c	木3・4		
	分散システム論	58	木1・2	高橋 道郎	情報システムを使う立場から、代表的な分散システムがどのような仕組みで動いているか理解することで、情報システムの利用スキルが向上し、情報の収集・加工・伝達や考える力を向上させる。
	原価計算論	59	火5・6	竹森 一正	工業簿記の知識から原価計算への上級知識を得る。製品の原価を目的とした総合原価計算から始めて、標準原価計算まで進める。
		60	火3・4	山北 晴雄	実際原価計算(主に総合原価計算)および標準原価計算ができるようになるとともに、その理論的背景について理解する。
	会計情報システム論B	61	月7・8	竹森 一正	会計学の講義体系の中でも管理会計の知識をエクセル上で応用して実現する。
管理会計論B	62	月5・6	竹森 一正	管理会計論Aをさらに発展的に学んでいく。コストと会計、環境とコスト、CSRとコスト、エネルギーとコスト等、それぞれの関連など。	
	63	金1・2	山北 晴雄	管理会計論Aで学んだ知識を踏まえて、経営者や管理者のさまざまな意思決定に必要な管理会計の基本的な技法を練習問題を解きながら理解する。	
特別講義B	64	木1・2	舛山 誠一	グローバル経済化、企業の海外進出化が進む中で日本企業の経営環境と国際経営に関する基礎知識を得る。	
	65	火5・6	大島 俊一	21世紀の日本と世界の見方、及び世界と自分史との係わりを深める。6名の外部講師を招き、講義と質疑応答形式での講義形態。	

国際関係・異文化・宗教	アフリカを知る	66	木5・6	青木 澄夫	日本とアフリカの関係・交流・協力の歴史をたどりながら、日本人のアフリカ観やアフリカ人の日本観を学習。テーマは「アフリカは遠いか?」
	東アジアを知るB	67	木7・8	宗 婷婷	東アジアにおける中国古代から現在までを中心に、朝鮮半島、ベトナム、日本などの近隣の国々について、具体的事例を示しながら、社会・文化的な側面などを理解する。
	中東を知る	68	水3・4	堀内 勝	宗教教義、及び儀礼、宗教文化について、「宗教としてのイスラム」及び「中東の歴史文化」を中心に進める。
	北米を知るB	69	金3・4	河内 信幸	アメリカの社会と文化を第二次世界大戦の前と後に大きく二つに分け、その特徴を考察。第一次大戦を経て大国になったアメリカ、また大衆文化と大量消費のアメリカの矛盾など。
	ラテンアメリカを知る	70	金1・2	杓谷 茂樹	ラテンアメリカ社会と歴史を地域別に、政治・経済・文化面にわたって概説する。
	国際政治史	71	火5・6	羽後 静子	同盟の形成と対立、資本主義と社会主義・ファシズム、民族解放と民族自決、軍備拡張競争と軍備縮小 という視点から、20世紀国際政治史を概説する。
	制度経済学	72	水5・6	原田 太津男	「国際経済と企業」をテーマに現在話題となっている食料輸入、知的所有権、企業の国際展開などのトピックを中心に多国籍企業という制度を扱う。
	国際経済史	73	月7・8	高 英求	国際経済史に関する基礎的な知識を習得すること、さらに専門的な本・論文を理解する土台をつくるのが目標とする。
	NGO/NPO論	74	火3・4	野田 真里	「市民社会の台頭－21世紀社会の新しい担い手の課題と可能性を探る」をテーマに非政府組織(NGO)非営利組織(NPO)の理論と実践について検討し、「地球規模で考え、地域で行動する」地球市民としての能力を育成する。

このガイドは2009年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学 ホームページのシラバスを、是非ご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	科目名	No	曜日・時限	担当者	ガイド
国際関係・異文化・宗教	地域開発論	75	月5・6	羅 立新	現実をふまえて地方財政の現状、問題点、改革の方向を検討し、地方財政の役割、国との財政関係、予算、地方税、地方交付税交付金、地方債など地方財政の制度と特徴のほか、分権化、少子高齢化、過疎化、国際化といった新課題への対応策についても考察する。
	環境論	76	火3・4	鶴野 公郎	議論を実証可能なものとして体系化し、「持続可能な発展」に向けた政策を実施する上で手がかりとなるアプローチを検討する。オンライン・マルチメディア・ブラウザを共通情報基盤として利用することにより大きな問題に体系的に取り組む。
	国際金融論	77	木5・6	高 英求	国際金融に関する基礎的な用語・概念を、ひととおり学習。『国際関係論』『国際経済学』などの基礎知識を土台にする。
	計量経済学	78	木1・2	戸田 優男	社会・経済・文化現象の数量分析を主題とし、量的のみならず「質的」データをどのように計量モデル化していったらよいかについて、統計解析や数理経済学の基礎をふまえて、理論的かつ実証的に検討を加える。
	ジェンダーと開発	79	金1・2	羽後 静子	「開発と女性(WID)」と「ジェンダーと開発(GAD)」の2つの理論的、政策的違いを比較検討することを中心に見る。
	ガバナンスと開発	80	木7・8	羅 立新	従来のガバナンス議論を再検討し、開発協力・援助に当たって、政治・行政・財政・市場などの制度相互間関係と組織の役割について、複眼的視点から現状分析、実証分析を提示する。
	英米言語研究	81	木1・2	武藤 美代子	100年前のイギリスに焦点を当て、当時の英語文献を読み進めながら文化的・社会的・歴史的背景について考え、「英語」が100年前には何を表現していたのかを学び、「英語」の背景についての理解を深める。
	アジア言語研究	82	月5・6	黄 強	中国の自然環境、諸民族の言語、文字に関する基礎的な知識、および中国人の暮らしに見られる言語・文化現象の分析を通して基本的な分析法など。
	言語文化研究A	83	月7・8	水野 豊	フランス語とフランス言語文化を取り上げ、多言語多文化問題、国家の言語政策、移民の言語使用状況など、多角的視野から言語文化を研究する。
	留學生活論	84	金5・6	中野 智章	留学への関心を高め、それを現実のものとするよう手ほどきを行う。また、国際関係について学ぶ上で重要な視点である、自文化と他文化との比較する。
	社会学	85	月1・2	ウルリッヒ メーワルト	現代の産業社会における社会成層の発達と、その研究・発展の具体的な例での説明に基づいて、現代社会を理解するための社会学の基礎的な知識を深める。
	観光人類学	86	水5・6	杓谷 茂樹	観光を巡る様々な問題を通して、文化の変容・生成について考える。
	文化人類学特殊講義	87	水1・2	和崎 春日	アフリカ社会を中心に、他文化の行動様式や価値意識にある「科学性」の発見から、私たちの行動が「正しい」のか「これで足りる」のかを問う。また、日本や日米欧など「北側」社会の「南側」社会へのかかわり方、南北をめぐる「開発」、援助、協力、外交、NGOのあり方など。
	比較日本研究	88	火3・4	ウルリッヒ メーワルト	主に日本とドイツの比較を通して、家族、または男女の役割に関する意識について、日本とヨーロッパの間の共通点と相違を両社会における社会変動の枠組で説明する。
	現代社会特殊講義	89	水1・2	小島 亮	戦後日本思想総体を把握するために様々な論点を分析し、論及する。
	人文地理学	90	木1・2	渡辺 欣雄	文化人類学の影響を色濃く受けた文化地理学による人文地理学を講ずる。
	フィールドワーク論	91	火5・6	和崎 春日	現代日本都市の伝統文化のありようを、日本の代表的祭礼、京都・大文字祭礼を例に、その祭りフィールドワークの実際から考察する。
	世界史概論	92	水5・6	河内 信幸	ヨーロッパ近代・現代の国家形成の流れを追い、多くの国々の歴史に政治・経済・文化などが複雑に関連していること、その変化の背後にどのようなモメントがはたらいているのか見る眼を養う。
	西洋思想史	93	金5・6	小野木 芳伸	西洋の哲学者を題材にして、西洋思想の歴史を概観することで欧米文化を理解し、ひいては日本文化を理解する。
	地誌B	94	水3・4	原 眞一	地域を構成する多様で複雑な諸要素との係わりとその全体像(地域性)を探究し、地誌学の見方・方法などを涵養し習得する。
音韻論	95	金7・8	野田 恵剛	音素、音韻論的対立、相補分布、母音調和などの概念を理解し、音韻論的な考え方を理解する。	
社会言語学	96	月3・4	山田 伸明	多言語社会の問題点、社会階層、性差などによる言語の差異、裁判と言語、日本と米国の英語公用語化、在日外国人に対する言語政策など。	

このガイドは2009年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学 ホームページのシラバスを、是非ご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	科目名	No	曜日・時限	担当者	ガイド
日本語・日本文化	日本語講義B	97	木7・8	堀江 裕子	我々の持つ認知能力を意味の基盤とし、具体例に基づき、語(多義語・類義語)や慣用句などの意味について考察、日本語の持つ個別性と普遍性など。
	日本語教授法B	98	水3・4	小森 早江子	日本語を母語としない人に「外国語として日本語を教える」とはどういうことなのかを学び、日本語教授法の実践的な技能を習得する。
	日本文化文献講読B	100	水1・2	永田 典子	風土記の中から神話的観念の色濃く残るものを取り上げ、伝承芸文の特質を考察する方法を学び、読解力を高める。
	日本の文化B	101	木5・6	大山 誠一	日本列島は、東日本と西日本というように東西の違いが強調されるが、東西という地域概念が成立した根拠と意味を考え、そのことが日本の歴史にどのような役割を果たしたかを考える。
	古典文学講読B	102	月5・6	本田 恵美	くずし字の解説・語釈・現代語訳をしながら、『伊勢物語』の後半の章段を丁寧に講読し、古代人と現代人との思想の相違や共通点、また表現の面白さなど。
	伝統芸能論	103	火3・4	嘉原 優子	アジア各地に伝えられた伝統芸能、日本の伝統芸能を中心にそれぞれの地域文化との関係、それらが内包する諸要素の類似性や異質性、伝統的要素と現代的変容など。

英語・英米文化	応用言語学入門B	104	火3・4	松原 勝子	言語に関連する様々な分野の研究やトピックスに親しみ、知識を今後の外国語習得に役立てる。
	英語の発音B	105-a	月5・6	ヤーッコラ 伊勢井敏子	語彙レベルから、句、文レベルまでの発音現象を知り、日本語音を分析的に理解し、英語音との違いを認識する。
		105-b	木5・6		
	英米の文学B	106	月7・8	島津 信子	20世紀のアメリカのマイノリティ女性作家の作品を取り上げ、文学作品の読み方の基礎を学び、米国の文学作品を通してアメリカ文化について考察する。
	英米の歴史B	107	金7・8	本内 直樹	英米諸国を中心とした資本主義経済の歩みと社会変化を振り返り、英米経済の発展・停滞・再生といった諸局面が、世界規模にわたって社会構造や人々の日常性にどのような影響をもたらしてきたのかについての理解を深める。
	英語学特講B	108	月7・8	ヤーッコラ 伊勢井敏子	様々な英語音声の現象についての理解、音声教育に役立つ知識も学習することで、リスニング向上を目指す。
	英米文化特講B	109	月3・4	島津 信子	映画を教材として使い、1960年代の公民権運動から現在にいたるまでのアメリカ社会の主な出来事をたどりながら、さまざまな文化や価値観の移り変わりに関して理解する。
	日・欧・米比較文化論B	110	木5・6	本内 直樹	日欧米諸国における移民・外国人労働者の問題を扱い、多文化共生社会の在り方を比較考察しながら今後の課題について考える。
	スペシャルトピックスB	111	木5・6	チャールズ サンディ	The purpose of this course is to read about、discuss、and do research into the various issues surrounding the history of language education in the 20th century.
	ディスカッションB	112	木7・8	グレゴリー キング	This course is designed so that students will gain some insight into lives of real Americans and help them to understand a bit of American culture.
異文化コミュニケーション論B	113	月7・8	塩澤 正	異文化間コミュニケーションに関する「知識」を増やし、文化相対主義にもとづく非差別的な「態度」を身に付け、積極的に異文化を持つ人間と「行動」するための、基礎能力を養成する。	

コンピュータシステム	音響表現	114	木5・6	宇佐美 理	リアルタイム音響合成のためプログラミング環境SuperColliderを使って、オブジェクト指向プログラミング言語の基本的な文法を習得し、音響合成の古典的な技法について。
	現代文化史B	115	木3・4	井上 輝夫	ほぼ20世紀の始まり前後からの文化思潮を、歴史、哲学、芸術、言語などの文化にわたって学習する。
	社会学B	116	月3・4	都築 耕生	戦後の混乱期から始まり、経済高度成長を経て、石油危機、安定成長、バブルの崩壊を経て現代にいたるまでの日本社会の変化を中心に学習し、現代社会の変貌と私たち自身の生活の関係について理解を深める。
	心理学B	117	火3・4	西野 泰代	心理学の基礎的な知識を自分の経験や日常生活の中に結びつけて理解すると同時に、心理学の基礎的な考え方に触れることで「心理学的なものの考え方」というものを習得する。
	言語コミュニケーションB	118	火7・8	平本 毅	実際の会話データの分析から会話の社会的秩序を成り立たせている種々の技法や手続きを明らかにする「会話分析」と呼ばれる研究手法の基礎など。

このガイドは2009年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学 ホームページのシラバスを、是非ご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	科目名	No	曜日・時限	担当者	ガイド
コミュニケーション・メディア・ジャーナリズム	コミュニケーション論B	119	金1・2	松本 健太郎	記号学の考え方を援用しながら、各種メディアによって媒介されるコミュニケーションのメカニズムを理解し、「メディアが形成するリアリティ」や「監視社会の構造」などのテーマを設定し、現代的なコミュニケーションの実相にアプローチする。
	メディアと歴史B	120	水3・4	和田 伸一郎	メディアの歴史を辿ることを通して、メディア学への導入をはかる。
	記号修辞論	121	月1・2	伊東 豊	修辞の本来の目的は、自分の考えを正確に、かつ説得的に発表する技術である。そうした面に重点をおき、修辞学の歴史や具体的な技術について理解する。
	音響分析A	122	金7・8	葉口 英子	音楽をめぐるさまざまな諸相について、文化、社会、技術といった広い視点から捉え、音楽と視聴覚メディア、ポピュラー音楽、音楽の再生装置などのテーマを中心に考える。
	比較文化論B	123	金7・8	宮下 十有	現在のグローバル化、デジタル化、ネットワーク化など大きく変化する時代の中で、文化に関する状況はどのように変化しているのか、さまざまな事情、条件のもとで異なる文化を持つ人々が出会う時、何が起きているのかを考察する。
	メディア産業論B	124	木1・2	福田 功	新聞、出版、放送、インターネットなどの業界で主要企業の現状といま業務遂行及び経営面で直面する課題、それぞれの個別事情を分析することで、将来どう発展するかを考える。
	表現と倫理B	125	月5・6	大橋 弘	表現行為の持つ多様な可能性とその影響力、同時に人権観、プライバシー観、ワイセツ観の変遷を知る。
	政治とコミュニケーション	126	水3・4	栗木 千恵子	わが国の政治の仕組み・機能を理解し、現在問題となっている事柄について自分自身の意見を持ち、それをどのように伝えればよいかを立案できる力をつける。
	メディア・テクノロジー	127	月7・8	和田 伸一郎	メディア・テクノロジーに限定せず、テクノロジー全般が、近代の産業革命以降、世界、人間、文化をどのように変えてきたかということを考える。
	ニュース記事・編集	128	月1・2	福田 功	新聞のニュース取材と編集の方法を学ぶことで報道の意義を知り、ジャーナリズムの過去、現在、未来を考える。
	新聞研究B	129	水5・6	大橋 弘	インターネット時代、個別情報化の時代に新聞は生き残れるか。情報のデパート化をめざしてきた新聞だが、いま重大な転機に立たされている。さらには市民・読者(受け手側)のたいなる変化に新聞はどう対応して行くか。具体的に問題点を検証しつつ新聞と受け手側の関係を検討する。
	テレビ放送研究B	130	木3・4	齋藤 宏保	ニュースやドキュメンタリーなどテレビの報道番組は、どう作られているのか、そこにはどんなメッセージが込められているのか、誰に対して何を言おうとしたのか、取材・制作にあたってどんな問題があったのかを検証し、テレビの報道番組はどうか作られているのかを理解する。
	社会の心理	131	木3・4	山本 明	社会心理学が扱うさまざまな問題について具体的な例を挙げながら、コミュニケーション行動に焦点を当て、それらの背後にある社会心理的要因を探る。
	メディアとことば	132	木7・8	柳谷 啓子	各種メディアとことばが相互にどのように作用しながら、現代社会のコミュニケーションを成立させ、私たちの現実認識を作り上げているのか、またメディア環境の変化が、表現様式や言語自体、言語行動や人間関係のあり方などにどのような変化をもたらしているかを考える。
	企業とコミュニケーション	133	金7・8	大野 貴司	企業活動に重要な影響を及ぼすステークホルダーといかなる関係性を形成すべきか、ひいては社会において自社をどう位置づけていくかという課題を、コミュニケーションという視点から論じる。
	医療・障害者とコミュニケーション	134	金5・6	石井 賀洋子	自分自身の健康について考え、障害をもつということはどういうことか、超高齢社会を生きるとはどういうことか等について基本的な知識を学んだ上で、医療現場におけるコミュニケーションについて考える。
	映画史B	135	金5・6	小林 貞弘	映画史を線状的にイメージしやすいものとして提示するとともに、各年代の社会情勢・時代状況について考察する。1950年代から90年代までをカバーする。
映画研究B	136	木5・6	小川 順子	日本映画における女や男がどのように表象されてきたのかを、1930年代～1980年代の映画を中心に考察し、時代背景と照らし合わせつつ、家族という形態を通した男女の描かれ方から社会的・文化的価値観を分析する。	
音響分析B	137	金5・6	葉口 英子	映画、テレビ、アニメ、ゲームなど、メディアにおける映像と音楽の相互作用に注目し、それぞれの音表現の特徴やメディアの特性に対する理解を深める。	

このガイドは2009年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学 ホームページのシラバスを、是非ご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	科目名	No	曜日・時限	担当者	ガイド
心理	健康心理学A	138	金5・6	小川 浩	喫煙、飲酒、睡眠といった生活行動習慣を取り上げて、その健康影響、心理的メカニズム、対処・対策、関連社会環境などを概説するとともに、「養生訓」を引用して日本古来の健康観や健康法を紹介する。
	学校心理学A	139	木3・4	西口 利文	児童・生徒の心理的、教育的支援に密接に関わる重要な概念、また、それぞれの概念や事項と、心理学の各分野などとの関連性など。
	社会心理学A	140	月3・4	高比良 美詠子	「人がどのように自分や他者のことを認識しているか」という問題に焦点を当てながら、自分や他者が普段行っている行動を科学的に研究することの意義や面白さについて考える。
	社会心理学B	141	火3・4	高比良 美詠子	「人はどのように他者とコミュニケーションをとるか」という問題を中心に、人が社会的動物とよばれることの意味について考える。
	心理学史	142	木3・4	松井 孝雄	個々の心理学分野ごとに通史を学び、縦のつながりを理解し、広い範囲の心理学研究を時代ごとに概観し、横のつながりを理解する。
	臨床心理学B	143	月5・6	願興寺 礼子	主な心理療法の学派を紹介し、それぞれの立場に共通する心理療法の基本ルールやプロセスについて解説する。

歴史 ・ 地理	現代日本の地域性	144	木1・2	中藤 康俊	日本の地域性の理解と「持続可能な地域づくり」の課題を考え、豊かで、持続可能な「地域」のあり方を考える。
	日本とアジアB	145	金3・4	趙 寛子 一谷 和郎	19世紀半ば以降の近代を対象とした、主に中国と日本の関係、また日本と朝鮮・韓国の関係を中心に、アジアの歴史に関する基礎知識を学習する。前半は一谷和郎先生、後半は趙寛子先生が担当する。
	アジアの歴史B	147	木1・2	趙 寛子	1980年代までの東アジアの冷戦史を朝鮮半島の事情を中心に学び、現代韓国の文化・歴史認識の状況について理解する。
	アジアの歴史C	148	水3・4	一谷 和郎	中国の歴史事実を知り、歴史学的な考え方に慣れることで、現代中国を理解する。
	アメリカの歴史	149	金5・6	柳沢 幾美	アメリカの歴史を学ぶことによって、世界に君臨しているアメリカの姿を理解する。白人男性中心のアメリカ史ではなく、これまで軽視されたり切り捨てられてきたような少数民族集団、社会集団などの「マイノリティ」や女性も充分組み込んだ歴史解釈など。
	ヨーロッパの歴史B	150	火3・4	阪上 孝	近代ヨーロッパの社会・文化・思想の歴史についての基礎知識を提供し、あわせて日本が、明治維新以後、近代ヨーロッパ文明をどのように受け容れたかを考察する。
	地域と都市	151	木3・4	林 上	都市を中心として行われている経済活動に焦点を当て、経済がどのように成長していくのか、労働力、技術、環境などをキーワードとして考える。
	地域と経済	152	月7・8	中藤 康俊	都市化に伴う住宅、交通、環境問題、農山村の過疎化に伴う医療・福祉、教育・文化、農業などさまざまな問題を明らかにし、国土政策を考える。
	日本地誌	153	金7・8	北田 晃司	日本のさまざまな都市およびその背景にある文化、歴史、経済、風土などについて旅行者に近い視点から具体的に検討する。
	技術の歴史	154	金1・2	小林 博行	江戸時代に日本各地に起こった特産物についての資料を講読しながら、近世社会における産業と技術について検討する。
世界地誌	155	月3・4	末田 智樹	日本の諸地域と世界の諸地域について地誌学を通して考え、歴史地理学科における地理学の位置づけや、世界経済および企業経営の動向などにも比重を置き、現代社会についても一緒に考える。	

芸術	民族と文化	156	水1・2	千葉 成夫	隣国の一つである韓国(朝鮮半島)について、その古代から現在にかけての文化を中心に話をし、また日本との関わりについて考える。
	美術の思想と表現	157	木5・6	千葉 成夫	ルネサンスを西欧近代絵画の始まりととらえ、その「始まり」の諸相を、カラヴァッジョ フェルメール ゴヤの3人の代表画家を通して考える。
	音楽の表現と歴史	158	月3・4	鶴田 正道	モーツァルトを題材に「感動のありどころ」を、音楽を聴きながら感じる。「磨かれた感性による大学生活の充実」を目的とする。

哲学	哲学の世界	159	月1・2	大滝 朝春	中世哲学によってギリシャの学問的伝統がどのように継承され展開されたのか、さらに、そこに貫かれている思考と論理の厳しき、学問観の客観的性格など。
	論理の世界	160	火5・6	大滝 朝春	論理的整合性を体系的に追求し、論理の妥当性而非妥当性を、単に直感によってでなく、論理的に判定出来るようにする。

このガイドは2009年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバスや中部大学 ホームページのシラバスを、是非ご参照ください。より詳細な授業計画をご覧ください。

分野	科目名	No	曜日・時限	担当者	ガイド
バイオ・環境・食品	環境動物学	161	月5・6	須藤 千春	無脊椎動物が長い進化の過程で獲得してきた生活、生存戦略を、その仕組みと生物学的な意義、脱皮・変態や休眠・飛翔、共生・寄生などの昆虫が特に発達させている生理現象について、その分子機構やホルモン制御を含めて理解する。
	機器分析化学	162	水3・4	山本 敦	分析機器の基本原則を理解することで、正しい操作法を習得し、正確なデータ解析ができるようにする。
	食品科学概論	163	金1・2	和田 俊夫 柘植 治人	食品の主な構成成分、おいしさに関わる要素、加工における成分変化、食事と健康の関わり、安全性の確保、関連法規や表示制度など。
	生物環境調節学	164	金5・6	寺井 久慈	自然環境に対する生物の基本的な応答、生物生産のために行なわれている環境調節や生産物の貯蔵・鮮度保持のために取り組まれている環境調節など。
	微生物学	165	金3・4	倉根隆一郎	微小生物がどのように研究され、人類との関わりでどのように理解されてきたかについて、また未知の可能性など。
		166	火1・2	荒井 基夫	
理論生物学	167	水1・2	関村 利朗	理論生物学の考え方と解析方法を、いろいろな例を挙げて学習する。	

生命・医療・看護	生と死の文化人類学	168	木7・8	小林 邦彦 石井 賀洋子	医療施設でのフィールドワーク(死体解剖を含む)で得られた、現代医療における生と死に関するさまざまな現象を、文化人類学的視点から紹介し、「生と死」について向き合い、健康の意味について考える。
	微生物学	169	木1・2	伊藤 康彦	微生物の形態、生化学的性状、増殖機構や宿主-微生物の相互関係等の微生物学総論と個々の細菌やウイルス学の諸性質を学ぶ微生物各論、人類と微生物との戦いと共存の歴史、消毒法や滅菌法の原理、院内感染、新興感染症や再興感染症の実態など。
	公衆衛生学	170	火5・6	城 憲秀	健康事象の因果関係や疫学・統計手法などの基本的な事項、法令や組織などの社会的な健康増進サポートシステム、公衆衛生的観点に基づく社会的な健康問題へのアプローチ手法など。
	生命倫理学	171	金3・4	佐藤 芳	生命に関する現在の価値観だけではなく、これからの価値観を作る。
	災害看護論	172	土1~4	牧野 典子	自然災害の発生や、航空機事故、感染症の集団発生など、突然、多人数の生命や健康が脅かされた場合、医療関係者はどのように対応し、医療関係者以外の人は何ができるのか、また、災害を防ぎ被害を最小限にする為に必要な知識など。

教育	教育方法学	173	金3・4	豊田 ひさき	学校やその他の教育施設で、教師と子どもの間で行われてきた「教える⇄学ぶ」の関係を教育現場の実践をあげながら歴史的に概観、また小学校の学習指導要領に記載されている内容をすべての子どもに定着させると同時に子ども一人ひとりの個性を伸ばすことを目指した教育方法の基礎的知識と、ノウハウを修得する。
	発達心理学	174	火1・2	武藤 久枝	新生児期から老年期までの生涯発達の視点にたつて乳幼児期の発達を理解する。